休眠預金等活用 助成事業のこれまでの経過・現況について

資金分配団体の公募選定、採択された資金分配団体による実行団体の公募選定を通じて、助成事業を展開中

１．２０１９年度 採択事業

- 2019年６月３日～７月31日までの間、資金分配団体を公募
  67事業49団体の申請があり、同年11月29日、**24事業22団体（助成総額29.8億円）**を選定・公表
- 各資金分配団体は、同年12月以降、実行団体の公募を順次開始　501団体の申請があり、うち142団体を選定。

２．２０２０年度 新型コロナウイルス緊急支援助成事業

- 2020年５月27日～６月12日までの間、資金分配団体を公募
  42事業42団体の申請があり、同年７月17日、20事業20団体（助成総額16億円）を選定・公表
  ※40億の枠のうち16億を採択、その後随時公募で3事業3.3億円を採択、現在は随時公募として、1/31迄受付　現在審査中）
  → 現時点で、累計で、**23事業23団体（助成総額19.3億円）を選定・公表**

- 各資金分配団体は、同年７月末以降、実行団体の公募を順次開始
  これまでに561団体の申請があり、うち192団体を選定（1月25日時点）※順次選定・公表

３．２０２０年度　採択事業

- 2020年６月１日～７月27日までの間、資金分配団体を公募
  43事業42団体の申請があり、同年10月７日、**20事業20団体（助成総額28億円）**を選定、10月7日公表済み
- 今後、各資金分配団体は、実行団体の公募、審査、選定を行い、**実行団体が今年度中に活動を開始**する見込み

資金分配団体・実行団体の選定状況

■資金分配団体による助成事業数累計

67事業

2019年度通常枠　24事業
2020年度緊急支援枠　20事業
2020年度通常枠　20事業
2020年度緊急支援枠<随時>3事業

■実行団体数（累計）

334団体

2019年度通常枠　142団体
2020年度緊急支援枠　192団体
2020年度通常枠　公募中
2020年度緊急支援枠<随時>公募中

■助成予定総額

約77億円

2019年度通常枠　約29.8億円
2020年度緊急支援枠　約16億円
2020年通常枠　約28億円
2020年度緊急支援枠<随時>約3.3億円

資金分配団体が掲げる「優先的に解決すべき社会の諸課題」

優先的に解決すべき社会の諸課題	19年度事業〈24事業〉	20年度緊急支援枠	20年度通常枠〈20事業〉
1) 子ども及び若者の支援に係る活動			
① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援	17	17	13
② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援	16	14	13
③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援	6	6	11
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動			
④ 働くことが困難な人への支援	10	9	10
⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援	14	13	13
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動			
⑥ 地域の働く場づくりの支援	9	8	12
⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援	14	8	14

※各事業が複数の社会課題に対応

資金分配団体 活動対象地域別事業数

団体所在地	19年度通常枠<対象：22団体>	20年度緊急支援枠<対象：20団体>	20年度通常枠<対象：20団体>
全国	16	7	8
北海道	1	1	1
東北	0	2	1
関東	0	2	2
北陸	0	1	2
東海	2	2	1
近畿	2	1	2
中国	1	1	4
四国	0	1	1
九州	1	2	3
沖縄	1	1	2

＊1事業で複数地域にまたがる場合はそれぞれの地域をカウント

2020年12月26日開催政府広報オンラインシンポジウム「舞い上がれ　社会を変える　みんなの力～休眠預金を活用した社会課題の解決～」資料より。当日の模様は以下に掲載。
https://www.gov-online.go.jp/tokusyu/COVID-19/policy/kyumin-yokin.html

休眠預金の活用事例①
「ちくだいKIP」（北海道帯広市）：次世代型ヘルスケア体操コミュニティの構築

○休眠預金からの助成金を充て行う事業

- 帯広畜産大学体育館や帯広市総合体育館などの公共施設を利用した子ども体操教室を主軸とする、次世代型ヘルスケア体操コミュニティの構築。
- 今後は、おとな筋力トレーニング教室で生成された「エビデンスの高い運動プログラム」と、「コミュニティ育成方法」をパッケージ化し、大手企業や地方自治体からの業務委託を受注するなど、ビジネスを展開。

子ども体操教室
（2020年6月、帯広市）

おとな筋トレ教室
（2020年11月、帯広市）

代表理事 山田氏、
帯畜大准教授 村田氏

2020年12月26日開催政府広報オンラインシンポジウム「舞い上がれ　社会を変える　みんなの力～休眠預金を活用した社会課題の解決～」資料より。当日の模様は以下に掲載。
https://www.gov-online.go.jp/tokusyu/COVID-19/policy/kyumin-yokin.html

休眠預金の活用事例②
「くるみ一来未」（神奈川県川崎市）：発達障害等のある当事者・家族の居場所づくり

○休眠預金からの助成金を充て行う事業

- 発達障害や知的障害のある当事者と家族の居場所とするため、築50年の空き家をDIY改修した「くるみのおうち」を本年２月に開所（川崎市中原区）。
- この場所では、発達障害や知的障害のある当事者と家族を対象とした社会体験イベント（みんなでカレーを食べる会、お弁当づくり、プログラミング体験講座等）を月２回程度開催するほか、DV被害にあったり、行き場がなかったりする青年を一時保護するシェルターとしての機能も有する。

「くるみのおうち」で
開催されたカレーイベント
（2020年9月29日、川崎市）

「くるみのおうち」で
開催された珈琲焙煎講座
（2020年10月23日、川崎市）

黒川青少年野外活動センターで
開催されたドラム缶ピザづくり
（2020年9月20日、川崎市）

JANPIAのHP： https://www.janpia.or.jp/

活動対象地域でも検索ができます